

海況速報

平成 16 年度 第 5 号 (通算 No.101)
平成 16 年 12 月 27 日
北海道立水産試験場



内容についてのお問い合わせは
中央水産試験場 海洋環境部
Tel 0135-23-4020

11 月下旬 ~ 12 月上旬の海況

時化のため欠測が多くなっています。

日本海海域

津軽海峡西方に暖水渦？

道西日本海は時化のため観測が十分ではありません。積丹半島周辺のみを観測となりました。衛星画像をみると、42-30N、137-30E 付近に暖水渦が見えています。また、青森県十三湖西方の 41-00N、139-20E 付近には 200m 層で 11 以上の渦構造の南半分が見えており、このことから津軽海峡西方海域には暖水渦があるようです。水温偏差について見ると(水温偏差表参照) 積丹半島周辺(J31-J38) の 0 ~ 50m では、平年より 1 ~ 2 程度高くなっていますが、ほぼ平年並みとなっています。

余市における 10 月下旬以降 12 月中旬までの沿岸水温は、「平年並み」~「かなり高い」で推移し、特に 11 月上旬から下旬まで「かなり高い」で推移しました。

道東太平洋海域

道東太平洋海域は時化のため沖合域に欠測が多くなりました。前回(10 月)に見えていた暖水塊は、今回の観測ではとらえられていません。沿岸域では宗谷暖流起源の道東沿岸流(*1)の影響が見られます(例えば 100m 層で 6 以上)。水温偏差について見ると、全体的に平年並みのところが多くなっています。

道南太平洋海域

津軽暖流渦モード

100m 層で 10 以上の津軽暖流は、襟裳岬南方の 143-30E まで張り出しており、渦モード(*2)となっています。道南太平洋は津軽暖流に広くおおわれています。水温偏差について見ると、噴火湾湾口部の白老から尻屋崎(P61-P66)にかけての海域では、200m 層で 1 ~ 4 水温が高く、前回(10 月)に引き続き水温が高めに推移しています。噴火湾中央部では表層から下層(水深 80m)まで約 10 の津軽暖流水が占めています。

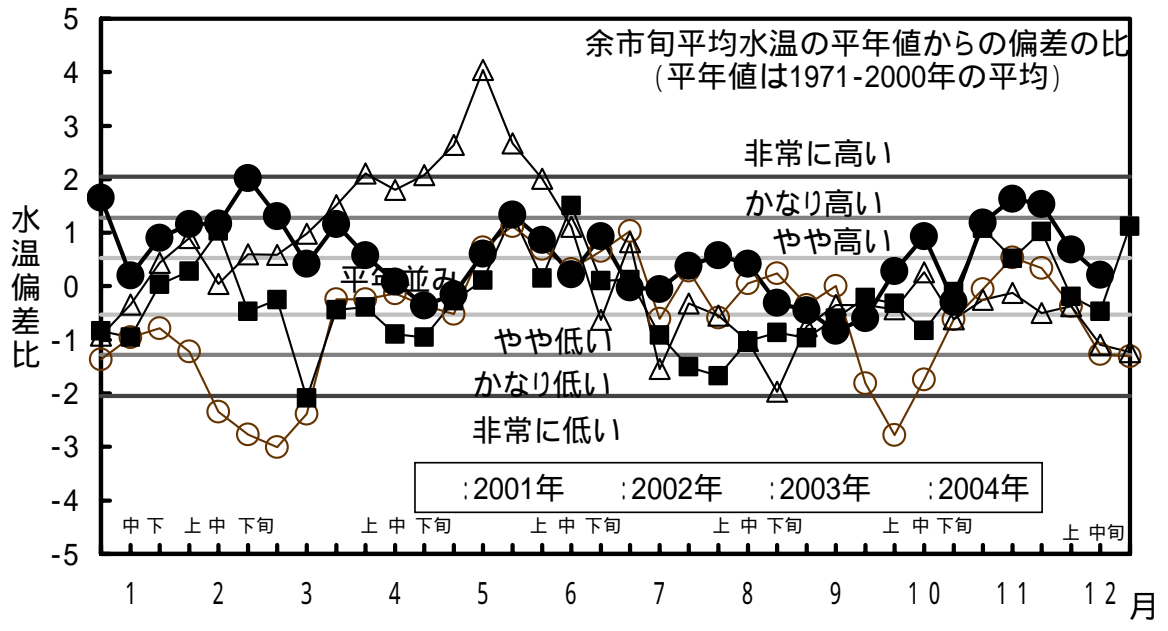
オホーツク海海域

宗谷暖流潜る

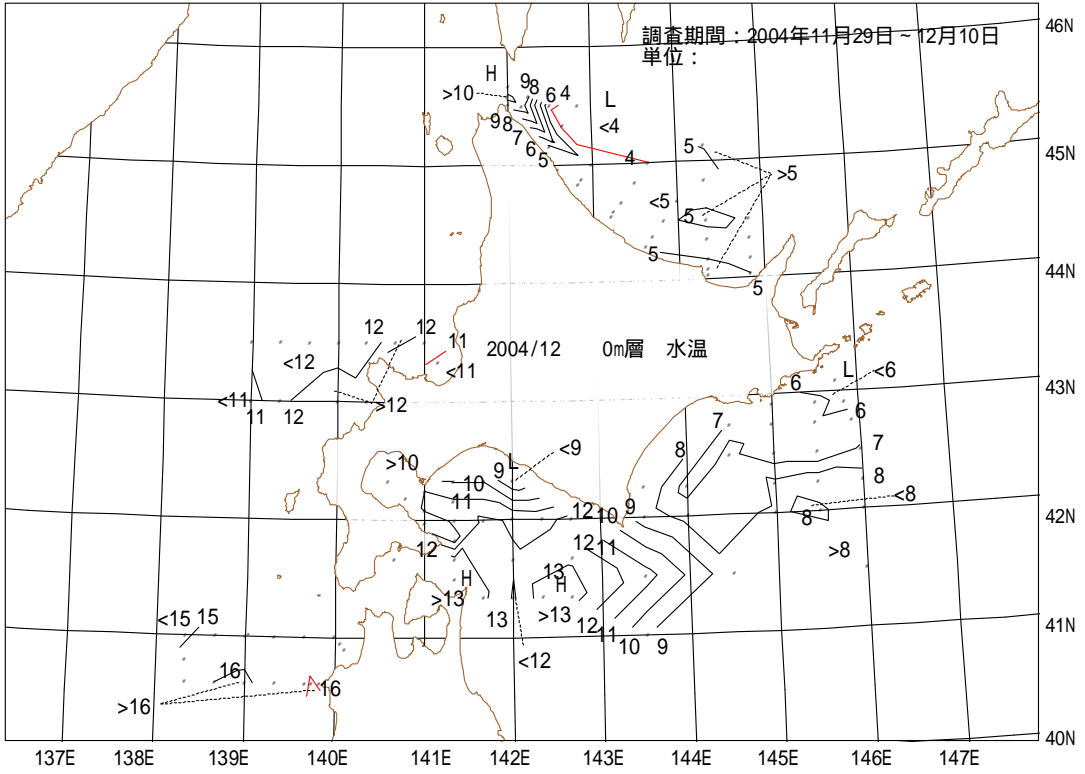
荒天のため知床半島北方海域が欠測となりました。浜頓別以東では、表面水温が 5 以下の東カラフト寒流におおわれています。宗谷暖流は浜頓別付近から潜流となり、斜里沖まで 100m 層で 9 以上となっています。水温偏差について見ると、例年より観測時期が遅いにもかかわらず、水温が高いところが多くなっています。

資料	観測期間	観測海域
青森水総セ（青鵬丸）	2004/12/08-12/09	（東北日本海海域）
中央水試（おやしお丸）	2004/11/30-12/04	（道西日本海海域）
稚内水試（北洋丸）	2004/11/30-12/02	（オホーツク海海域）
釧路水試（北辰丸）	2004/11/29-12/10	（道東太平洋海域）
函館水試（金星丸）	2004/12/06-12/10	（道南太平洋海域）

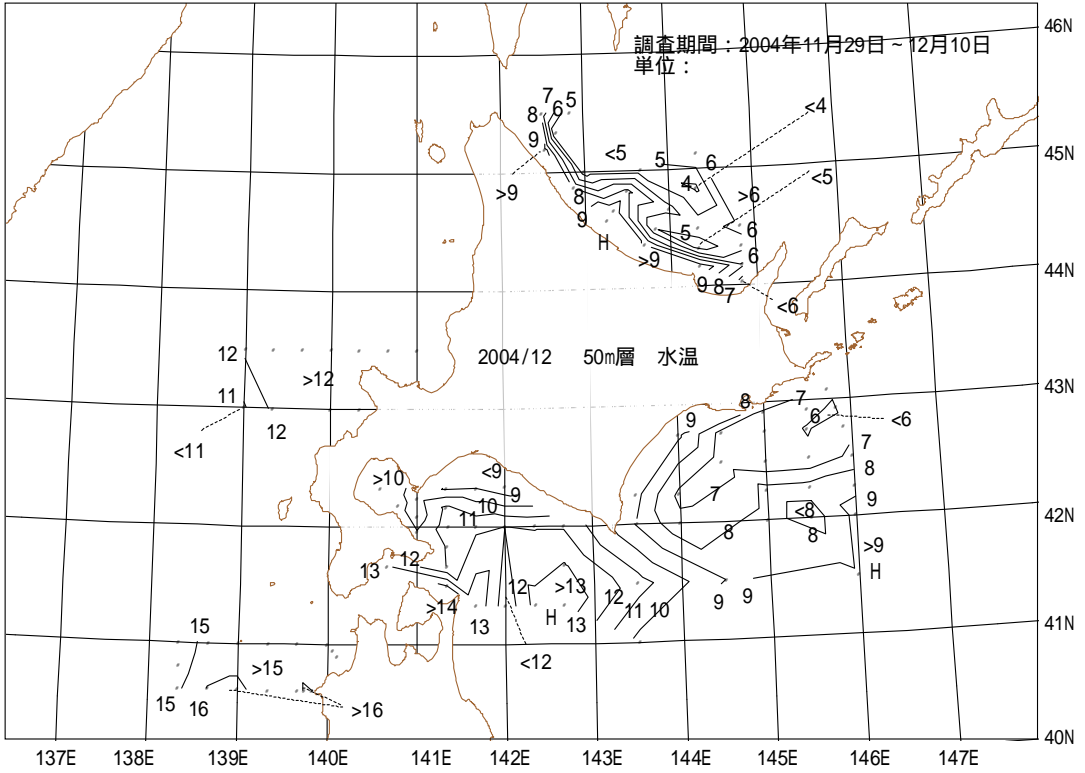
- * 1：夏～秋季に道東沿岸を流れるオホーツク海起源の沿岸流を道東沿岸流と呼んでいます。
- * 2：津軽暖流が津軽海峡から襟裳岬まで大きく張り出してから南下している状態を「渦モード」と呼びます。これに対して、津軽暖流が青森県尻屋埼からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下している状態を、津軽暖流の「沿岸モード」と呼んでいます。
- * 青森水総セは青森県水産総合研究センター（旧青森水試）の略です。



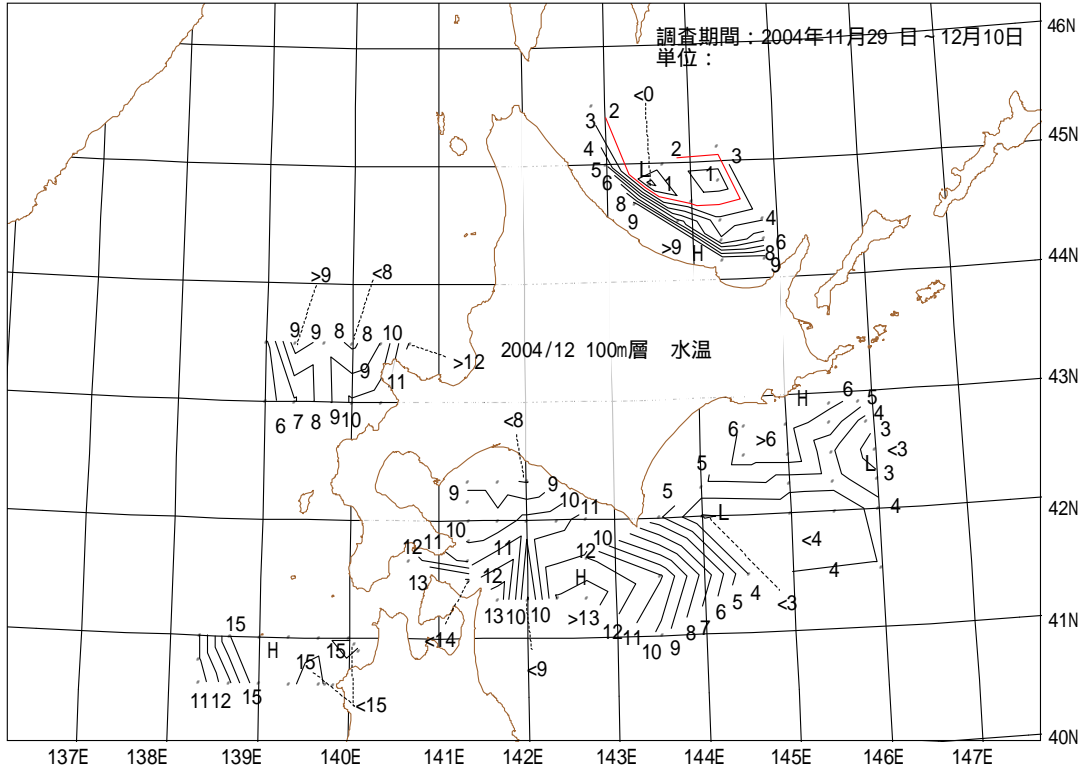
北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報

